

二、無染清浄心

一、論註に云く

「何等三種。一者無染清浄心、以不為自身求諸樂故。菩提は無染清浄心。若為身求樂即違菩提。是故無染清浄心是順菩提門。」

順菩提門の第一は、無染清浄心である。これは上の智慧門に合するのである。無染とは、染とは染着心のこと、染着心とは、我が身の為に、諸樂を求め心である。この心よく菩提を障碍するのである。智慧門によって、己が為に諸樂を求めざる心成ず、これを名づけて無染心と云うのである。この無染心は、よく菩提に隨順する故に順菩提門と名づけられるのである。

清浄心の清浄とは、所求に約して名づけられたものである。畢竟清浄は、是れ菩提の体相である。故に已下、無染清浄心、安清浄心、樂清浄心と、三心は皆この菩提の体相に隨順するが故に、清浄を以て通称されるのである。この清浄なる菩提に隨順する心なるが故に亦、三心は皆清浄心である。

一、「菩提は無染清浄心」

智慧によつて、隨順する所を明かにするのである。菩提は無染清浄の処である。仏果の徳であつて、下の文には、「無所得法名為菩提」とあり、隨つて、無我の心、無染着の心によつてのみ得られるのが菩提である。若し、我の心、染着の心があつて、我が身の為に樂を求めらば、無染清浄の処たる菩提に相違するのである。されば、

「若為身求樂即違菩提。是故無染清浄心是順菩提門」

と説かれるのである。

我等はこの論の意を聞きつつ深い内觀に引き入れられる。衆生は貪欲等の汚染によつて、染着心のみを持てるものである。三毒は、共にものに貪愛を感じ取捨の想を起さしめて、それ自身菩提に相違する心である。されば三毒を三垢と言われるのである。三毒は清浄ならぬ三垢である。されば、如来は衆生貪瞋二河の間に、信心、即ち清浄願往生心を回向成就して、本願名号に隨順せしめたまうのである。されば本願力回向の大信心のみが、「身の為に樂を求め」ざる心なるが故に、無上菩提心を言われるのであろう。信心は無上菩提心である。眞実の菩提の法に隨順する心である。されば、この心によつて、無染清浄心を解するならば、無染清浄心とは、願作仏心の心である。願作仏心は、自利の心である。

願作仏心の自利は、唯如来の本願力によつて成就するのである。還相菩薩といえども、如来の本願力によつてのみ、この浄土の意、無染清浄心を成就して自利成就するのである。前に説かれたが如く、還相の菩薩といえども、具体的には、法身への歸依によつて、智慧門を成就することを想起すべきである。法身への歸依に依つて、智慧門の清浄を成就するのである。故にこの心は、即ち願作仏心である。